

ようこそ中国語の世界へ

全学共通教育センター

中国語 石井康一 作成



先輩の留学体験から

○教科書では学びきれない中国の衣食住を肌で感じることができました。百聞は一見に如かず！ 帰国後は中国語の授業が更に面白くなりました。また中国にまつわるニュースやTVを見ていても共感できるので楽しみが増えます。（女性）

○ 実際に中国に住み、現地の先生や近所のお店の人達と触れあうことによって 自然と中国語が身に付いていく喜びは、その後の人生の方向を決めました。職場で中国語を使えることによって中国人のお客様からもとても喜んでもらえることができ、働く自信にも繋がりました。（女性）

○卒業後に勤めた会社を辞めて最近再就職を決めたのですが、応募者多数の中でまさかの採用で、なぜ私かと聞いたら、面接で語学への熱意と海外語学講座の経験を話したのがよかったそうです。（女性）

- 2010年、交換留学で北京郵電大学へ留学したT君（当時理工学部4年生）は、冬のウィンドブレーカーを買いに衣料品市場へ行きました。値札がついていない店では店員との交渉で値段が決まります。最初店員が提示した価格は350元（約4500円）でした。「180元なら買いますけど」「そんな値段では売れません」「じゃあ結構です」店を去ろうとすると呼び止められて「お客さん、その値段で売りましょう」同行の中国人の友人の口添えで更に20元値引きさせて、半額以下の160元（2000円）で買いました。T君は「同じ買い物でも日本との違いは大きいですね。店員の言うことを鵜呑みにせず自分の目で判断すること、自分で価値を決めることが必要です」と語ってくれました

2008年、夏の北京オリンピックの年、日本航空インターナショナル北京支店で働くOさん(2003年文学部英語英米文学科卒)に話を聞きました

- ・ 一仕事では中国語を使う割合は非常に高く、日系企業ではありますがスタッフとの会話はほとんど中国語です。また航空券の予約や変更、発券等の問い合わせも、中国人からの電話だと中国語で全てまかなっています。企業へ営業に行く時も、タクシーに乗って、行ったところのないところへも自分で説明して行かないといけないので、北京の地理にも随分強くなりました。日本にいる時に日本語で仕事しているのと同じ要領で、こちらでは中国語で全てをまかなっていることに、今では慣れてしまっていて違和感はありませんが、よく考えると不思議な気がします。

—意思疎通をはかることは、日本語でも難しいことです。それを外国語で自分の要求を表現するのは、語学能力も問われますし、またモノの言い方や身振り手振り、目線や態度も伴ってきます。中国人は表現がはっきりしていますが、日本人はどちらかというと曖昧な事が多いと言われています。ですから同じことを中国人に伝える時は、なるべくはっきり言うようにしています。

- 自分の要求が中国語で伝わり、それがうまくいったときの喜びは、本当に大きなものです。たとえば、スタッフに今日中にしないといけない払戻しの手続きを朝一番にお願いしてうまくいった時や、航空券のキャンペーンを企業に配布しに行き中国語で説明をし、実際にキャンペーンに登録していただいた時など。

—オリンピック期間中は、日本人選手の輸送や日本から来る日系企業の社長並びに役員等のケアが主な仕事でした。またオフィスに隣接しているホテルにJOC（日本オリンピック委員会）の本部があり、日本人を主とした観光客や駐在員やその家族が大画面で試合を見られるようにと作った部屋に置かれたJALのブースに仕事中にたびたび顔を出すなど、とにかく忙しくて休みなしでした…

- 卒業後20年が過ぎた今もOさんは台湾の台北に在住し、いきいきと活躍しています。皆さんも選択された学部の専攻以外に、新しい外国語に力を入れてみては如何でしょうか？

- 大阪市で中華料理店を営む成松さんが料理の道に進むきっかけは、小学校3年のときに家族で行った中国旅行でした。「この国では、何を食べてもおいしいんやな」と感激。30歳までに自らの手で中華料理店を開くと決意した（朝日新聞2016年9月27日）」そうです。無垢の心での異文化体験が新しい人生の可能性を生み出したのですね。

- 私も初めて引率した海外語学講座Ⅱ（夏休みの短期留学）で西安の西北大学（現在の行先は北京郵電大学です）に行き、お昼に大学近辺の食堂で皆と食べた中国料理がすべて美味しく、割り勘だと1人100円ちょっとであることに衝撃を受けました

- NHKテレビで見た「ドキュメント72時間—長崎 お盆はド派手に花火屋で」にカルチャーショックを受けました。中国では春節（旧正月）の時期に派手に花火・爆竹を鳴らします。私も一度経験しましたが、毎夜、街のあらゆる場所で戦場のような爆音が数時間続き、空気も汚染されるし、赤ちゃんやお年寄りはどうしているのかと不思議に思いました。

- 日本にはない中国独自の習慣だと思っていたのですが、長崎人、特に初盆を迎えた長崎の人がお盆のときだけお墓の前で、そして街中で鳴らしているのです。数十万円分の花火・爆竹を「爆買い」して燃やし尽くす人もいます。

- そうでもしないと癒されない身近な人を喪った悲しみに、私は強く共感することができました。江戸時代も開かれていた長崎だからこそでしょうが、どこかでつながっている中国と日本の深い縁に感動しました。お盆の時期の長崎を一度は訪ねてみたいと思うようになりました。

- ・ コロナ禍後の新しい時代が始まり、中国語を学ぶ必要性は今あらためて再認識されています。

面白くてためになる中国語を、
一緒に勉強しませんか！？比
較的時間がある大学生の間に、
自分のレベルアップを目指しま
しょう！

大学で学ぶ価値とは、すでにある知
を身につけることではなく、これまで誰も見
たことのない知を生み出すための知を身
に付けることだと、わたしは確信
しています。

——上野千鶴子

中国語学習相談アワー

金曜昼休み 6号館5階653

中国語・韓国語学習指導室にて

気軽にいつでも来て下さい！！

・ 仲間と共に、教員と共に、
楽しく中国語を学んでいき
ましょう！

中国語担当：石井康一